令和６年度
亘理町地域おこし協力隊
活動報告

亘理町地域おこし協力隊　菅原　悠翔

菅原　悠翔(すがわら　ゆうと)

2003年9月30日生まれ、宮城県仙台市出身。

6歳の頃にスケートボードを始め、地元のスクールで基礎を学びながらスケートボードの魅力にのめり込む。

12歳で東北大会にて優勝を果たし、17歳でスケートボード企業とスポンサー契約を締結。以降、プロを目指しながら、高校卒業後はアルバイトをしつつ競技に専念し、数々の大会に出場する。

その後、亘理町の地域おこし活動に出会い、「自分のスケートボードの経験を地域に活かしたい」という思いから、2023年に亘理町地域おこし協力隊に着任。町内でのスクール開催やイベント参加を通じて、子どもたちの育成や地域の魅力発信に取り組んでいる。

2024年11月には、アメリカで開催されたアマチュア世界大会に出場。国内外を問わず、スケートボードの可能性を広げながら、地域と世界をつなぐ存在を目指して活動を続けている。

１．2024年　活動の目的

スケートボードを活用した町の新たな魅力づくりを行い、地域の活性化を目指す。

- 鳥の海公園スケートボードパークでスクール・イベントを開催
  → 地元の子どもたちにスケートボードを広め、県内外からスケーターを呼び込み、町のPRと活性化に貢献。
- 児童館などで初心者向け体験会を実施
  → 誰でも気軽に始められる機会を提供し、地域の交流の場に。
- 撮影やSNSで情報発信
  → スケートボードを通じて、亘理町や地域おこし協力隊の魅力を発信中！

２．活動内容

（１）スケートボードスクール

（２）イベント　企画・開催

（３）スケートボード体験会

（１）スケートボードスクール

【活動内容】

本スクールは、「W to W 亘理から世界へ」を合言葉に、スケートボードの技術向上だけでなく、一人ひとりの個性を大切にしながら成長を促すことを目的に活動を行ってきました。

年齢やスキルに応じたレベル別のレッスンを行い、パークのセクションの特性を活かした実践的な練習を展開しました。初心者は安全に楽しめる環境で基礎を学び、中上級者はステップアップに挑戦できる構成となっています。

※W to W：Watari to the World

【活動実績】

2024年度は年間を通して 25回のスクールを開催し、延べ約 220名の参加者が集まりました。

セクションの特性を活かしたレベル別のコース設計により、安心して挑戦できる環境を整え、参加者それぞれが自分のペースで技術を高めることができました。基本的なバランス感覚の習得から、プッシュやターンなどの基礎技術、さらには応用技へのステップアップまで、継続的な成長が見られました。

また、技術面に加えて、仲間との関わりやチャレンジする姿勢など、内面的な成長も多く見受けられました。スクール内での交流やお互いを励まし合う姿勢が、参加者の個性をさらに引き出す原動力となりました。

活動の様子やスクールの告知は SNSでも積極的に発信しており、写真や動画を通して参加者の頑張る姿や楽しそうな雰囲気を地域内外に届けました。これにより、スクールの認知度が高まり、新たな参加者との出会いにもつながりました。

今後も「スケートボードを通じて人としても成長できる場」を提供し、亘理から世界へと羽ばたく子どもたちを応援していきます。

（２）イベント　企画・開催

【活動内容】

鳥の海公園スケートボードパークで大会を開催するため誘致活動を行いました。

【活動実績】

パークでの大会開催に向け、大会の誘致活動を行い、「AJSA2025東北アマチュア・サーキット第１戦（2025年5月予定）」の開催決定に貢献しました。

また、私も大会の審査員としての参加が決定し、技術面からのサポートを通じて、大会の公正性とクオリティ向上にも貢献していきます。

本大会は、東北、関東エリアのスケーターが集う貴重な場であるとともに、地域への経済効果や文化の発信の場としても期待されています。現在、関係者と連携しながら、円滑な開催に向けた準備を進め、町のPRに努めていきます。

（３）スケートボード体験会の開催

【活動内容】

本年度は、スケートボードの楽しさをより多くの人に知ってもらうことを目的として、初心者向けのスケートボード体験会を児童館やイベント等で開催しました。

体験会では、スケートボードに初めて触れる子どもたちや、保護者の方々にも安心してご参加いただけるよう、基本的な乗り方や安全に楽しむためのルールについて丁寧に指導を行いました。経験豊富なインストラクターのもと、ヘルメットやプロテクターを着用したうえで、楽しく安全にスケートボードの魅力を体感してもらいました。

また、参加者同士の交流や、親子で一緒に挑戦する姿も多く見られ、スケートボードを通じた新たなコミュニケーションの場としても、大変好評でした。

体験会は、年齢や運動経験に関係なく誰もが楽しめるスポーツとしてのスケートボードの魅力を発信する貴重な機会となり、今後のスクール参加や地域でのスポーツ推進へのきっかけづくりにもつながったと感じています。

【活動実績】

本年度は、スケートボードの普及と地域貢献を目的に、さまざまな場面でスケートボード体験会を実施いたしました。

■体験会の開催概要

①東北未来芸術花火2024での体験会

②石川県能登町での出張体験会

③町内児童館での体験会

①東北未来芸術花火2024での体験会

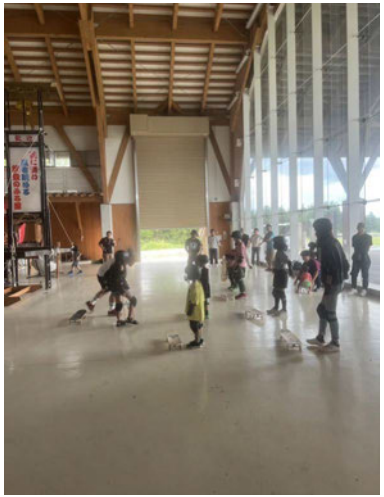
9月28日に開催された東北未来芸術花火に合わせて体験会を開催し、多くの来場者にスケートボードの魅力を発信しました。

家族連れの参加も多く、子どもから大人まで約15名の方にご参加いただき、イベント全体の賑わいにも貢献しました。

②石川県能登町での出張体験会

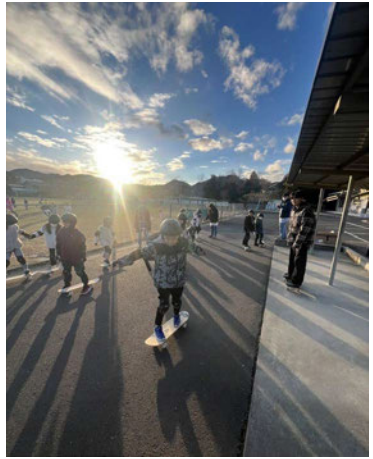
石川県能登町で8月31日にスケートボード体験会を実施。

被災地支援も兼ねたこの活動は、メディアにも取り上げられ、多くの方に注目されました。約20名の方々に参加していただき、地域の子どもたちに笑顔と元気を届ける機会となり、スポーツによる心の交流の大切さを再認識する貴重な体験となりました。



③町内児童館での体験会

町内の児童館で、10月10日・11月18日・12月29日、体験会を実施し日常の延長で気軽にスケートボードに触れる機会を提供しました。毎回15名の子どもたちにご参加いただき、安全面に配慮しながら、インストラクターのサポートのもとで楽しく体験してもらい、多くの子どもたちから「またやってみたい！」という声が寄せられました。



３．2024年　活動の成果

2024年度は、スケートボードスクールと体験会を通じて、地域に根ざした活動を展開し、以下の成果を挙げることができました。

- 延べ220名がスクールに参加し、技術向上だけでなく個性や自信を育む場となりました。
- 東北大会の誘致に成功し、今後の開催による地域活性化と競技の普及が期待されています。
- 花火大会や児童館、能登町での体験会を開催し、初心者層や親子連れなど幅広い参加者にスケートボードの魅力を伝えました。
- 能登での活動はメディアにも取り上げられ、社会的な関心と認知度の向上につながりました。

本年度は、スポーツを通じた人と人とのつながりや地域貢献を実感できた一年となりました。

４．今年度の反省・改善

本年度は、スクール運営や体験会の実施、大会誘致など多くの成果を得ることができましたが、以下のような課題や改善点も見られました。

- スクールの開催日程や内容の告知が直前になることがあり、参加者への周知が十分でない場面があった。今後は、早めの広報と情報の一元化を図ります。
- SNS発信の頻度に波があり、継続的な広報活動としての一貫性に欠ける部分があった。投稿スケジュールの管理やコンテンツの事前準備を徹底する。

これらの反省点をふまえ、次年度は運営体制の見直しと情報発信力の強化、さらには安全かつ参加しやすい環境づくりに努めてまいります。

５．来年度の活動計画

1. スケートボードスクールの定期開催と拡充
   - 年間を通じてスクール回数を増加
2. 東北大会の開催・運営
   - 5月開催予定の大会を成功させるための広報・運営準備
3. SNS・映像発信の強化
   - 月1～2回の定期投稿スケジュールを策定
4. 地域とのつながりづくり
   - 児童館等と連携した体験会を継続